

くらし のスタジオ

平成24年11月発行
生活デザイン設計室 株式会社 サンク

情報誌

<http://www.cinq-sd.co.jp>

情報は様々な形で私たちの生活に入ってきます。
PCの普及で情報の多くはスピード的に検索で入手
できます。そんな中、たった見開き1枚のこの通信の
存在は?と思いつつこの通信で皆さまとのつながり
を大切にしていきたいと思っています。
ご感想などを寄せいただけると励みになります。
ささやかなメッセージです。

東日本の大震災から2度目の冬を迎えるとしています。
被災地及び関係者の皆様にとって、復興には長い月日がかかる事と思います。
ここよりお見舞い申し上げます。



2012
秋号(季刊)

創刊 Vol.5

断捨利の間取り

前回の通信では断捨利、モノを整理することのむずかしさ、整理する時期の目安について提案させていただきました。今回は、終の棲家はどんな間取りが良いかの提案です。

ここに取り上げたのは、昭和30、40年代の小住宅の間取りです。

設計者は当事務所の師である(故)岡本敦先生。先生はその当時売れっ子の建築家、日本の住宅がウサギ小屋と揶揄される中、文化的な生活を理念に小住宅の設計に力を注いでおられました。今回、先生の作品を集めイベントを企画し、改めて間取りを見直す機会がありました。見返して思ったのは、これぞ終の棲家にふさわしい間取りなのでは?!

そんなわけで当時の間取りを2例掲載してみました。



17坪(54.3m²)子供室の増築を予定して

家族構成

夫婦・子供2人

- 夫婦と低学年(小学生)の子供2人のための住宅である
- 南側の庭がとれない場合でも、建物に入りこんだ庭をとって、子供室、居間から中庭が見て広く感じられる。玄関から真直ぐに中庭に出て、ここを接客の場合に利用することを考えてもよい。
- 台所、食堂、居間はワンルームのリビングキッチンであるが、台所側と居間側との間に間仕切り棚(ハッチつき)をおいて区切り、接客などの場合に備えても良い。
- バス・トイレ・洗面所はワンルームであるが、公団アパートでも経験済みであるから、抵抗はないと思う。洗濯場は台所に置いた。
- 将来は居間の東側に子供室を増築するが、中庭を子供室に増改築をして、子供室を2部屋にすることを予定しておく。(当時のプラン集からの間取りの解説)

プラン2

上記のプランの解説には、当時(昭和40年代)の暮らしぶりを彷彿させるコメントが随所にでてきて興味深いです。

庭が取れないなら、中庭をつくるなどのコメントは、今の狭小住宅の発想です。

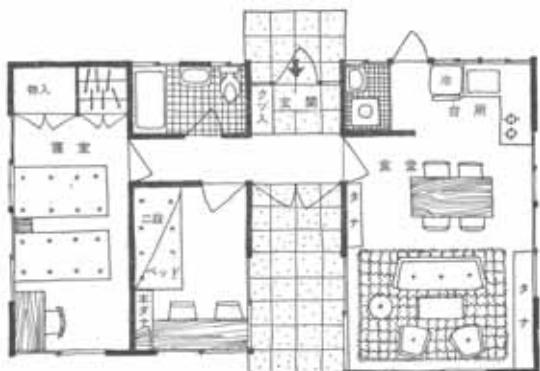
PP分離のプランです。玄関を取り、右と左で用途を分けています。

つないでいるのが中庭のテラス。玄関からテラスにスルーしているのも奥行感があり、広がりを見せてくれています。

よく、平屋の家に住めるのは、最高の贅沢との声をききますが、この広さなら平屋の家に住むのも容易です。小さな家に住む。間取りもシンプルに。住まいを断捨利。最近、減築という言葉を耳にするようになりましたが、これも断捨利の一つです。住まいは身の丈にあった間取りで十分。そう考えると老後の住まいは減築で実現できそうです。

モノを整理すれば、収納場所も少なくて済む。モノの断捨利の成功のカギは住まいの断捨利と関連があるようです。

P(プライベート)P(パブリック)分離の平屋の家



住まいの哲学

つい最近、全面改装をしたSさんに住まいの哲学をお願いしました。

第五回 「描くこと、つくること」

リ

フォームという作業を経験した。それも新しくマンションを購入して、自分の自宅兼事務所として。ある意味

これから「生つきあっていく棲家として。いや自分だけではない、ぼくにはパートナーがいます。これはいちばん大切。2人の棲家をつくるというコト。1人ならそれはそれでよい、後悔したって自己責任、割り切りだつてできる。2人となるとそつはいかない。どんな空間を描くのか?ではなく、ある意味2人の人生を描くわけです。もちろん2人で。

まずは、コンセプトを考えました。これからの「棲家」のコンセ

プト。

ぼくは写真を撮ることが無類の趣味で、作品を飾れるギャラリースペースが欲しいと思っていました。季節ごとに自己表現したい。それは、ずっとマグマのようにしまい込んでいた夢。だからコンセプトは「小さなギャラリーがある家」。

玄関を入れると左にクランクして、リビングにいたるまでの細い路地スペースがある。そこがスポット照明で小さなギャラリーになつていて、その先にリビング兼仕事場がある。パキッとした真っ白な回廊。そんなイメージ。

どう?OK?それともだめ?

でパートナーは?……OK!!!やつた!

そもそもパートナーは同士なのです。同じようなことで笑い、同じようなことで怒り、同じようなことで興味を持つ。だからぼくの夢のこと、ちゃんとわかつてくれている。言い出したら聞かない、こどもみたいにわがままなどこも。



コンセプトは決まりました。次は「描く」わけです。たんねんに描く。2人の棲家を。「描く」→「つくる」

さあ、ここからがたいへん。描くと、つくるの間には、さまざまな建築上の制約という壁が登場してきます。ギャラリーをつくみたいという無邪気な夢と、マンションの梁という敵や、配管の勾配という悪代官、最も手強い敵ともいえる「広さ」という名の巨神兵との戦いが始まります。

もちろん、そこには設計／施工のプロフェッショナルなノウハウ、経験が必要。

サンクさんさまさまなアドバイス、ご提案ありがとうございますぞございました。

でも一番重要なのは他人任せではなくて「じぶんたちが、そこに棲む」ということをリアルに描くこと。今、そう思います。そこがないと、前に進めない。

最終的な設計案が決まるまでになんども夢をみました。設計図面の住空間の中を歩き、憩い、仕事し、2人で語らう夢。

目覚めた時に「あ、キッチンのここをこうすればいいんだーどうかな?」「そうしたほうがいいんじゃない!」「わたしやっぱり、ここはこうした方がいいと思う」…みたいな会話は沢山ありました。自分たちで棲家を描き、プロフェッショナルなパートナーと一緒にくる。

大満足な棲家、できました。

今、その棲家で原稿を書いています。

あ、そろそろ、ギャラリーの作品をかえないと!

サンクの くらしのアドバイス

進化した間接照明で
秋の夜長を楽しむ



部屋全体が柔らかな光に包まれる建築化照明(間接照明)は演出効果を高めるので根強い人気があります。

少し前までは建築化照明と言えば、新築の計画段階から設計に取り込み、壁や天井をそれ用に造り込んだものでした。

最近はもう少し手軽に間接照明を味わえる既製品が開発されています。

壁と天井の間からの光を楽しむコーニス照明型(写真左)。バランス照明型(写真右)は遮光板の上下に光を拡散し、シンプルな光のラインがインテリアのアクセントになります。取付け方は、一般的の照明器具と同様に電気工事のみ。照明器具そのもので間接の柔らかな光や演出効果が得られます。

(参照写真ODELIC)

素敵な

生き方

ミャンマー日本・エコツーリズム会長

藤村 建夫さん

長く海外でお仕事をされた後、その経験を生かされNGOを設立。ご自身も楽しみながら現地で活動されている藤村さんをご紹介します。

ミャンマーへの 「エコツーリズム」を楽しむ

私は小学校の頃に「新諸国物語」の「紅孔雀」というラジオ放送を毎日、胸をおどらせながら聞いた思い出がある。それは、呂宋助左衛門という青年が、船に乗って、フィリピン、ベトナム、カンボジアまで出かけて活躍する物語で、以来、「将来は、自分も海外で働く」というのが具体的な夢となつた。そして、大学生の頃には、「国際機関で働く」というのが具体的な夢となつた。その後、やはり海外で働くという目的で「(社)海外コンサルティング企業協会」という団体

に転職した。その専務理事であつた山口さんの助言を得て、イギリスのサセックス大学で「開発経済学」を勉強することが出来たことが、その後の人生を大きく切り開いてくれた。

帰国後、国際協力事業団(JICA)が設立されたので、ここに転職した。1987～1990年まで、ミャンマー事務所長として赴任したのが、ミャンマーとの関わりが出来たきっかけである。在任中に知り合いになつた「世界仏教瞑想僧院」の和尚さんから、「僧院で学生に日本語を教えて欲しい」と依頼されて、6ヶ月間100人の学生に日本語を教えて帰国した。その後、この日本語教室は、拡大され、現在まで約5000人が卒業して活躍している。(ミャンマーから帰国して7年後の1997年に国際機関である国連開発計画(UNDP)に転職することが出来て自分の大きな夢をかなえることができた。2005年にUNDPを退職したが、依頼されて、引き続きその仕事を今も上海で手伝っている。

UNDPを退職してから人生の終活を考えた時、ライフワークとして、ミャンマーで滞在型の「エコツーリズム」を実施することを考え、「ミャンマー日本・エコツーリズム」というNGOを2007年に設立した。日本の学生さんをミャンマーに連れて行き、ミャンマー中部乾燥地にあるバガン遺跡近郊の村

で村人と一緒に植林をする。2012年までに三つの村に5000本の植林を行つた。

一つの村の共有地には、約2000本が限界であり、2年毎に新しい村を訪問する。

今では、NGOの活動費を得るために、

ニューヨーク、東京、上海で楽しく現役で働いている。そして年2回ミャンマーを訪問し、植林の準備と実施を行う。参加する学生さんは、村人と一緒に植林し、交流会をしてから、観光を楽しめるので、とても満足してくれている。村人達は、学生さんと一緒に植えた苗木を決して枯らさないように、しっかりと

水やりをしている。2007年に植林した苗木はすでに7～8メートルの高さに生長した。毎年、苗木が大きく生長し、景色が変わつて行くのを、村人と一緒に見上げて笑い、喜びあうのが大きな楽しみである。(詳しく述べるが、ホームページをご参照ください)



mjet

ミャンマー日本・エコツーリズム
<http://www.mjet-tokyo.com>

皆様からの感想、投稿もお持ちしています！

生活デザイン設計室 株式会社 サンク 一級建築士事務所

CINQはフランス語で“5”という意味。

1984年に女性5人で設立した建築設計、インテリアデザイン事務所です。

“間取りの住みこち”をテーマに、個人住宅の設計や新築マンションの企画、住戸の設計、インテリアコーディネート等を数多く手がけ、間取りを変えるマンションのリフォームが得意分野。2010年「暮らしのスタジオ」オープン。

書籍:「間取りの読み方・描き方」「住みやすが続くマンションの間取り」(ともに実業出版社)他

<http://www.cinq-sd.co.jp>

[仕事内容]

- 建替えのトータルな相談
- インテリアコーディネート
- 戸建て、マンションのリフォーム
- グリーンコーディネート



お問い合わせはフリーダイヤルで

0120-72-5039